

阿草 研究室	氏 名	赤 川 奈 緒
論 文 題 目	Real Business Object : RBO - 要求仕様化のためのビジネスオブジェクト -	
<p>ビジネスシステム開発における再利用促進アプローチとしてビジネスオブジェクトがある。ビジネスオブジェクトは業務において共通する概念であり、ビジネスモデリングに使われている。さらにコンポーネントを利用してビジネスオブジェクトを実装することによって、業務の概念を実現する情報システムを構築することができると期待されている。しかし、業務の共通性とコンポーネントが実現している機能には、実世界の概念とシステムでの実現というギャップが存在するため両者をうまく結びつけられない。業務の概念とソフトウェア部品との間に関連性を設けるために、ビジネスオブジェクトに実世界のオブジェクト (RBO:Real Business Object) とシステム上のオブジェクト (VBO:Virtual Business Object) という 2 面性を持たせる (右図参照)。</p> <p>実世界のビジネスオブジェクトを用いて要求仕様化を行い、要求仕様を基にシステム上のビジネスオブジェクトを特定することによって、システム設計仕様を得ることができる。このアプローチの中で、本研究では RBO を定義し、RBO によって要求仕様化を行う手法を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RBO の定義 次の 2 つの要件を満たすように定義する。1 つは、特定の業種に共通する業務の概念を表現できることであり、もう 1 つは、実現に近い VBO を決定するために、システムに対する要求を要求仕様化できることである。このように定義したビジネスオブジェクトを連携することによって、システムに対する要求仕様化を行う。 ● 要求仕様化手法 ビジネスシステムの要求仕様化が困難な要因として、ソフトウェアの知識だけではなくビジネスの知識も必要であること、要求記述に要求の「抜け」が存在することが挙げられる。ビジネスに関する知識の不足や要求の抜けによって、ユーザの要求が満たされていないシステムになる可能性もある。そこで、ビジネスオブジェクトを利用した既存の要求仕様を再利用する。既存の要求仕様はリポジトリによって管理する。ビジネスオブジェクトの連携を示すことによってビジネスの知識を得ることができ、必要なビジネスオブジェクトの抜けによって要求の抜けを発見することができる。 <p>提案した手法の有効性を確認するために、実際の業務に対する要求記述から要求仕様化を行った。要求仕様の再利用によってビジネスの知識を効率的に得ることができた。また、要求の抜けを防ぐことができることを確認した。</p> <p>発表実績 赤川, 金子, 中元, 小川, 阿草: ビジネスオブジェクトリポジトリを用いた要求定義手法, 日本ソフトウェア科学会第 20 回大会論文集, 1E-3, 2003.</p>		

